

平成20年度 事業報告書

財団法人日本ハンドボール協会

1. 普及指導に関する事業

1) 普及関係

(1) 少年チーム活性化推進ブロック会議

近畿	: 8月10日(日)長浜	関東	: 12月13日(土)守谷
四国	: 8月30日(土)香川総体	九州	: 12月26日(金)熊本
北海道	: 9月7日(日)函館	東北	: 2月21日(土)東根
北信越	: 10月11日(土)氷見	中国	: 2月25日(日)総社
東海	: 11月24日(月)富士の宮		

- ・少年チーム活性化の方策についての情報交換

(2) 小学生専門委員会

第1回小学生委員会 5月11日(日)事務局

- (1) 第22回全国小学生大会について
- (2) J級指導者講習会について
- (3) ブロック委員会の開催について
- (4) 各種調査について
- (5) (財)大崎スポーツ事業研究助成財団補助による事業展開について

第2回小学生専門委員会 7月28日(土)京田辺市

- ・各種小学生大会交流会実施の基本的な考え方について
- ・5月からの少年チーム実態調査の報告(説明資料有り)
- ・J級指導者講習会について実施促進

(3) 中学生専門委員会

第1回中学生委員会 8月19日(土)福井ワシントンホテル

- ・個人登録の進捗状況について
- ・次回大会の実施について
- ・第4回春の全国中学生ハンドボール選手権大会について

第2回中学生専門委員会 12月24日(水)堺市 シティホテル

- ・NTS センタートレーニングの金銭的負担について
- ・春の全国中学生大会会議内容の一部変更
- ・全登録チームへの指導資料配付について
- ・第18回大会の大会運営について(愛知県)

(4) 小学生指導要領対策

文部科学省訪問 : 文部科学省スポーツ・青少年局

第1回学校体育検討専門委員会 4月19日(土)国立体育館第2会議室

- ・第11回研究集会実施案検討
講師依頼(文部科学省調査官等)
- ・委託校選定について

小委員会(打ち合わせ) 8月4日(月) 佼成学園女子中学高等学校

8月5日(火)・6日(水) 佼成学園女子中学高等学校

- ・授業発表
- ・実技研修と講義

(5)ビーチハンドボール専門委員会

第10回 全日本ビーチハンドボール選手権大会

8月29日(金)～31日(日) 兵庫県神戸市「アジュール舞子」海岸

男子7チーム、女子5チーム

審判講習会、指導

第1回アジアビーチゲームズ ビーチハンドボール競技参加

10月18日(土) - 25日(土)インドネシア共和国・バリ島

男子 7位 女子 6位

今後の日本協会の姿勢

- ・当面国内の普及発展に努める。国際選手権大会へは別途定める
- ・これまでのように、国内中心で活動続ける

(6)マスターズ専門委員会

- ・第1回中央委員会 6月28日(日)

大会参加状況について

大会係割り当て

第16回全日本ハンドボールマスターズ大会 8月22日(金)～24日(日)

豊田市総合体育館(スカイホール)他

参加チーム 男子42・女子19 合計61チーム

- ・第1回マスターズ専門委員会

平成21年1月11日(日) 12時～甲州市 塩山体育館会議室

平成21年度第17回全日本マスターズ 大会要項(案)検討

第20回大会について

- ・2012年(平成24年度)大会は第20回となりこれを記念大会とする。

各ブロック報告

2) 指導関係

指導委員会

(1)スポーツ指導員養成実施県 山梨、石川、大阪、愛媛、鹿児島 (青森取り消し)

(2)20年度コーチ養成講習会 6月17日(火)～22日(日) NTC 参加者21名

(3)U-12指導法講習会 7月31日(木) 京田辺市中央体育館 参加者25名

(4)中央委員会 1月25日(日)

内容 平成20年度事業報告 平成21年度事業計画 その他

(5)全国競技別講師研修会 3月7日(土)、8日(日) NTC 参加者23名

(6)J級講習会、開催県 千葉、神奈川

- ・J級指導員申請手続きの変更 について

J級指導員申請手続きに関しては、平成20年度より創文企画が管理運営申請は従来通り、日本協会に報告し(登録料等も従来通り)

3) 競技者育成技術委員会

第1回競技者育成技術委員会 1月12日(月) NTC

- ・競技者育成技術委員会の経過について

・今後の技術委員会のあり方について

第2回競技者育成技術委員会 3月1日(日) NTC

・NTS 総括：一貫性を持たせるためには、この競技者育成技術委員会の“任務”

・組織：NTS を今まで以上に大きな枠で考える必要がある

2. 競技運営に関する事業

1) 主要大会の管理・運営 (斜体は国際大会)

月	大会名	開催日程	開催地	結果
4月	第5回東アジア選手権(男女)	4/4-6	日本・熊本	男子1:KOROSA 2;湧永製薬 3;大同特殊鋼 4;Beijing 女子:1; 松山 2;三陟市庁 3; ソニセミコンダクタ九州 4;Beijing Army
5月	日韓男子国際交流戦 アウェイ	5/3	韓国・光州	1;韓国 2;日本
	日韓男子国際交流戦 ホーム	5/9	日本・スカイホール豊田	1;韓国 2;日本
	北京オリンピック IHF 世界最終予選(男子)	5/30-6/1	カタール	1G 1;ポランド 2;イスラエル 3;スウェーデン 4;アルゼンチン 2G 1;フランス 2;スペイン 3;ルーマニア 4;チュニジア 3G 1;カタール 2;ロシア 3;日本 4;アルゼンチン
7月	第7回女子・第19回男子 世界学生選手権	7/5-13	イタリア・ベネチア	男子:1;ロシア 2;ベルギー 3;オーストリア 4;トルコ 5;ポランド 7;セルビア 8;イタリア 9;ハンガリー 10;日本 11;スロベニア 12;キプロス 13;チェコ 14;メキシコ 15;アルゼンチン 16;オーストラ リア 女子:1;トルコ 2;ハンガリー 3;ルーマニア 4;セルビア 5;アルゼンチン 6;中国 7;チェコ 8;ブラジル 9;ロシア 10;ポランド 11;日本 12;中国 13;イタリア 14;ハンガリー
	第2回女子U-18世界選手 権	7/11-20	スロヴァキア・ブラティ スラ	1;ロシア 2;セルビア 3;デンマーク 4;フランス 5;スペイン 6;韓国 7;スロバキア 8;アンゴラ 9;オランダ 10;ブラジル 11;アルゼンチン 12;チュニジア 13;日本 14;ポルトガル 15;モロッコ 16;カタル
	第3回男子U-18アジア選手 権(2009WC 予選)	7/11-20	ヨルダン・アンマン	1;ウズベク 2;カタル 3;イラン 4;パキスタン 5;韓国 6;サウジアラビア 7;日本 8;タイ 9;ヨルダン 10;イラク 11;インド
	第28回全国クラブ選手 大会・西地区	7/19-21	佐賀県総合体育 館	男子:1:FHC 2;北送会 3;ACウイング 4;下松クラブ 女子:1;大阪教員 2;徳山クラブ 3;熊本クラブ 4;風見鶏 F
	第16回女子ジュニア世界 選手権	7/21-8/3	マドリード・FYRO	1;ドイツ 2;デンマーク 3;韓国 4;スペイン 5;ハンガリー 6;カタール 7;フランス 8;モンテネグロ 9;ブラジル 10;ルーマニア 11;アンゴラ 12;アルゼンチン 13;イスラエル 14;日本 15;スロバキア 16;アルゼンチン 17;タイ 18;マドリード 19;オーストラ リア 20;オーストラリア

	2008 シンパルカップ 熊本大会	7/22-23	日本・山鹿市	日本代表・ブラジル代表 1勝1敗
	第13回ビロリア国際兼2008 シンパルカップ 広島大会	7/25-27	日本。広島市	1;ブラジル代表 2;湧永製薬 3;日本代表 4;韓国軍体育部隊
	第11回男子ジュニアアジア選手権(2009WC 予選)	7/25-8/5	ヨルダン・アマン	1;ウエト 2;イラン 3;カタール 4;韓国 5;ヨルダン 6;サウジアラビア 7;パレレン 8;日本 9;中国 10;UAE 11;ホンコン 12;インド
	第28回全国クラブ選手権大会・東地区	7/25-27	本宮町総合体育館他	男子:1;法政二 OB 2;FST 3;上井草クラブ、蓮田クラブ 女子:1;氷見クラブ 2;筑波学園クラブ 3;札幌クラブ、SAKURAクラブ
	高松宮記念杯第59回全日本高校選手権大会	7/29-8/3	和光市総合体育館他	男子:1;長崎日大 2;興南 3;大分雄城台、藤代紫水 女子:1;洛北 2;那覇西 3;四天王寺 4;大分鶴崎
	高松宮記念杯第49回全日本実業団選手権大会	7/30-8/3	奥武山総合運動公園県立武道館	男子:1;大崎電気 2;湧永製薬 3;大同特殊鋼 女子:1;北國銀行 2;松山 3;ニセモノダ 九州
9月	第21回全国小学生大会	8/1-3	田辺中央体育館他	男子:1;安居少年団 2;窪少年団 3;日岡少年団 女子:1;仏生寺少年団 2;平針南小 3;当尾小
	西日本学生選手権大会	8/5-9	グリーンアリーナ神戸他	男子:1;大体大 2;中京大 3;大同大、名城大 女子:1;武庫川女子大 2;大教大 3;関西大、福教大
	東日本学生選手権大会	8/7-9	東京女子体育大学体育館他	男子:A;中央大 B;富士大 C;明治大 D;国武大 女子:a;富士大 b;日体大
	第13回女子シンパルカップ シニア	8/8-10	リゾント上越他	1;香川銀行 T・H 2;スズキ 3;HC 岡山 4;かながわガビアーノ
	第13回男子シンパルカップ シニア	8/9-12	富山市総合体育館他	1;三重ホダクラブ 2;FOG 3;氷見クラブ 4;ホダ 熊本
	第37回全国中学校大会	8/18-20	福井県営体育館他	男子:1;明倫中 2;汐路中 3;岐陽中、大体大附中 女子:1;岩国中 2;光陽中 3;培良中、三郷北中
	第16回全日本マスターズ大会	8/22-24	スカイホール豊田他	男子:1;WAKUNAGA 2;NISSIN 3;オールドフェイス 女子:1;風見鶏ファミリ 2;スズキ 3;小松クラブ
	第35回全国高等専門学校選手権大会	8/23-24	釧路町総合体育館他	1;函館高専 2;北九州高専 3;八代高専、宇部高専
	第11回日韓姉妹交流 (派遣/男子)	8/23-27	韓国	
	第15回日韓中ジュニア交流 流競技大会	8/25-27	日本・千葉県	男子:1;日本 2;韓国 3;千葉 4;中国 女子:1;韓国 2;日本 3;中国 4;千葉
	第10回全日本ビュート ホル選手権大会	8/29-31	アジュール舞子海岸	男子:1;FST 2;FSTO 3;東海学連クラブ、滝川カガース 女子:1;日体ウマイケル 2;あぶらおおめ 3;藤乃
9月	第33回日本リーグ	9/6-3/	各地	

10月	第63回国民体育大会	10/3-7	大分県立総合体育館他	成年男子:1;埼玉県 2;愛知県 3;佐賀県 4;広島県 成年女子:1;石川県 2;茨城県 3;鹿児島県 4;広島県 少年男子:1;長崎県 2;茨城 3;大分県 4;熊本県 少年女子:1;京都府 2;大阪府 3;大分県 4;東京都
	第1回アジア・パシフィック選手権	10/18-26	インドネシア・バリ	1;中国 2;タイ 3;フィリピン 4;インド 5;ベトナム 6;日本 7;マレーシア 8;インドネシア 9;シンガポール
11月	第12回日韓スポーツ交流(派遣/女子)	11/16-21	韓国	
	高松宮記念杯男子第51回女子第44回全日本学生選手権大会	11/20-24	函館市民体育館他	男子:1;日体大 2;早稲田大 3;筑波大、東海大 女子:1;筑波大 2;東女体大 3;大教大、国士館大
	第12回アジア女子選手権(2009WC予選)	11/21-28	タイ・バンコック	1;韓国 2;中国 3;日本 4;タイ 5;オーストラリア 6;ベトナム 7;イラン 8;インド 9;ウズベキスタン 10;カタール
12月	第12回日韓スポーツ交流(受入/女子)	12/1-6	NTC	
	第60回全日本総合選手権大会	12/17-21	いしかわ総合スポーツアリーナ	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;トヨタ車体、湧永製薬 女子:1;私大 2;北國銀行 3;ソニーセミコンダクタ九州、筑波大学
	第17回JOCジュニアオリンピックカップ	12/25-28	堺市家原大池体育館他	男子:1;沖縄県 2;熊本県 3;愛知県、福岡県 女子:1;山口県 2;福井県 3;兵庫県、埼玉県
2月	全日本実業団チャレンジ2009	2/12-14	綾てるはドーム	1;ホンダ 熊本 2;セントラル自動車 3;八光自動車工業 4;自衛隊久里浜
3月	第33回日本リーグプレーオフ	3/14-15	駒沢体育館	男子:1;大同特殊鋼 2;大崎電気 3;湧永製薬、トヨタ車体 女子:1;私大 2;北國銀行 3;ソニーセミコンダクタ九州
	第32回全国高等学校選抜大会	3/25-30	徳島市立体育館他	男子:1;北陸 2;興南 3;香川中央、不来方 女子:1;名経大市邨 2;洛北 3;四天王寺、高松商業
	第4回春の全国中学生選手権大会	3/26-29	氷見市ふれあいスポーツセンター他	男子:1;はとり 2;神崎 3;玉名、ヴァル岐阜 女子:1;神森 2;氷見北部 3;光陽、原川

2) その他の事業

- ・平成20年度マッチバイザーの任務他各種通達、HP上の運営マニュアル化の試行
- ・平成20年度チーム・選手・チーム役員登録業務
- ・競技運営連絡協議会の開催(東京)
- ・日本体育協会と連携し国民体育大会運営の簡素化・効率化への取り組み
- ・国民体育大会正規視察(東京都)
- ・直接大会を管理した(ジャパンオープン、国民体育大会、全日本総合選手権、春の中学生大会)

3. 国際に関する事業

1) 国際に関する事業

日程	カテゴリー	大会名称	開催地
4月	男女リーグ	東アジアクラブリーグ選手権	熊本
	男子代表	日韓定期戦(ホーム&アウェイ)	愛知/韓国
		IHF ムスタファ会長来日	東京
5月	男子代表	北京オリンピック IHF 予選	クロアチア
7月	男女学生	世界学生選手権 2008	イタリア
	男子ユース TD-西山参事	第3回男子ユースアジア選手権	ヨルダン
	男子ジュニア	第11回男子ジュニアアジア選手権	ヨルダン
	女子ユース	第2回女子ユース世界選手権	スロバキア
	女子ジュニア 審判指名-檜崎・池淵	第16回女子ジュニア世界選手権	マケドニア
	男子代表	ジャパン・カップ	熊本/広島
8月	渡邊会長、市原副会長、 西窪強化本部長、田中コーチ	北京オリンピック	中国
9月	男子 U-16	日韓交流	韓国
10月	渡邊会長	IHF 理事会	ドイツ
	男女ビーチ TD-後藤参事	第1回アジアビーチゲームズ	インドネシア
		AHF シェイク・アマド会長来日	東京
11月	女子代表 TD-西山参事	第12回女子アジア選手権	タイ
	西山参事	IHF 医事委員会	スイス
	渡邊会長	AHF 常任理事会	クウェート
	女子 U-16	日韓交流	東京/韓国
		IHF ミュレマター専務理事来日	東京
1月	渡邊会長	IHF 理事会	クロアチア
2月	審判指名-福島・家永(不参加)	第11回アジアクラブリーグ選手権	サウジアラビア
3月	渡邊会長、川上専務理事、 西山参事	AHF 総会	クウェート
	審判	クウェートレフェリー招聘	東京

以上の大会への参加申請手続き・参加料の入金・渡航手続きなど事務全般

2) 国際会議に関する事業

(1) IHF 関係

- ・ムスタファ IHF 会長来日(4月11日 - 14日)対応
- ・ミュレマター IHF 専務理事来日(11月6日 - 9日)対応

- ・オリンピック最終予選の費用の請求について、IHF 事務局との諸連絡に関すること
- ・IHF と AHF に対しての諸連絡および韓国との協力連絡
- ・CAS 裁定後の IHF ・AHF との連絡調整全般
- * IHF ニュース翻訳

(2)AHF 関係

- ・シェイク・アーマド AHF 会長及び AHF 役員(ティアブ、マズーク)来日(10月21日 - 24日)対応、日本協会との和解
- ・各カテゴリーのアジア選手権開催について、日本参加の可否調整連絡並びに現地へ確認
- * AHF に関する諸連絡
- * テクニカルデレゲート・審判・派遣などに関する連絡
- * AHF 会議議題・議事録の翻訳

(3)EAHF 関係

- ・4月 EAHF 会議(日本・熊本)
- * EAHF に関する連絡

3)その他の事業

(1)国際移籍等に関する連絡(異動証明書の発行など)

金城 晶子	ドイツから日本へ 移籍案件の補助
谷口 尚代	オランダ内 チーム移籍案件の補助
浅井 友可里	オランダから日本へ 移籍案件の補助
重富 良次	日本からドイツ 移籍案件の補助
樫山 太郎	日本からドイツ 事務手続きの一部補助(* 移籍扱いではない)
豊田 賢治	日本から韓国 移籍案件の補助
松本 賢	ドイツから日本 移籍案件の補助
仲井 友崇	ドイツから日本 移籍案件の補助(移籍手続き保留中)
Mr. Lee Jae Woo	日本からカタール 移籍案件の補助

(2)翻訳業務

- 大会要綱の翻訳
- 海外大会情報の翻訳及び掲示
- 国際会議資料の翻訳

4 . 競技規則(審判)に関する事業

【基本方針】の報告

1)競技規則の正しい運用

4月熊本県で開催された東アジアクラブ選手権に合わせ、全国審判長会議を開催。各都道府県の審判長が一同に参集し、1泊2日の短期間で講習会および試合観戦、DVD視聴をとおり、実り多い研修会を開催することができた。講習会で提供された資料については都道府県単位で統一された内容で開催することができ効果が期待できる。

2) トップレフェリーの資質の向上

トップレフェリーの高齢化については否めない。次代を担う若手レフェリーの育成は必至でレフェリーコース等の環境整備を早急に取り組む必要がある。環境の整備は将来性ある若手レフェリーの育成に直結する。

国際審判員の池淵・檜崎は、IHF からの大会ノミネートがあった。他のレフェリーにはノミネートがない。現在、コンチネンタルレフェリーの登録は、藤井・大熨ペア、安田・永春ペアの 2 ペアであるが、年齢的な制限で A H F からのノミネートがもらえない。

レフェリーコース開催の有無がはっきりしない中、AHF に強く働きかけ日本でのコンチネンタルレフェリーコース開催を実現したい。

3) オーダーメイドの審判指導

判定基準の資料として「指導用 DVD」が作成され、全国大会審判長会議において配布された。各都道府県審判講習会で活用されることに期待したい。審判員評価表については、各全国大会で活用した。指導者と担当レフェリーとの観点を確認するための一助になり、担当レフェリーの意識向上にもつながった。

YRP の実質的な運用のひとつに、NTS との連携を試みたが十分といえる成果をあげることができなかった。ヤングレフェリー育成と合わせて課題は山積されている。

【重点施策】について

1) 今年度については、東アジアクラブ選手権が熊本県で開催されたことで、都道府県審判長会議を開催し、統一した情報の提供ができた。参集するに値する大会が存在しない場合の都道府県審判長会議の開催方法や持ち方に検討が必要である。

2) トップレフェリー研修会の期日については、全国大会の開催前では日程的に厳しいものがあり、研修会の意義等も考慮し、開催時期を検討する必要がある。2・3 月開催で、各ブロックごとの研修会開催を考えている。また、この研修会はレフェリーだけのものではなく、トレーナー、選手も参加可能であることを広めたい。

3) YRP(ヤングレフェリープロジェクト)の充実

実質的な活動をしている都道府県は、岩手県、愛知県、大分県の 3 県である。徐々に YRP への意識は高まってきてはいるものの、まだ十分とはいえない。積極的な働きかけとレフェリーの発掘を考えていきたい。また、21 年度から NTS の中央講習会においてもヤングレフェリーが参加した。選手強化およびレフェリー強化が同レベルで一体感を持たせやっていきたい。

4) 継続行事の実施

(1) 平成 20 年度登録公認審判員数 2,872 名(前年度 + 159 名)

終身 121 名、国際 14 名、A 級 289 名、B 級 545 名、C 級 705 名、D 級 1,198 名
(女子公認審判員数 A 級 8 名、B 級 16 名、C 級 55 名、D 級 198 名 合計 277 名)

(2) 公認審判員上級審査結果

A級審査は、全国クラブ選手権東地区をモデルに、B級は北地区(秋田県)・東地区(栃木県)・中地区(奈良県)・西地区(長崎県)の5地区にて実施。結果は下記のとおり。

	A級	B級
審査申請者	22名	53名
書類不備者	0名	0名
欠席者	0名	0名
筆記不合格者	0名	4名
実技不合格者	5名	10名
体力不合格者	3名	0名
合格者数	14名	39名

レフェリーコース受験状況

前期 期日 8月11日(月)～13日(水)

モデル 長浜ドリーム大会

場所 滋賀県 長浜市

担当者 越田義昭審査指導委員長
森山正浩審査指導委員
植村 彰審査指導委員

後期 期日 3月27日(金)～29日(日)

モデル 大学新人チーム対抗戦

場所 日本体育大学健志台キャンパス

担当者 越田義昭審査指導委員長
岸本光夫審査指導委員
植村 彰審査指導委員

受講生 7名 (愛知大2名 中京大2名 広島経済大2名 日本大1名)

B級認定者 4名

不合格 3名

JHA 実業団レフェリーコース研修会

期日 平成21年 2月12日(木)～13日(金)

会場 宮崎県東諸県郡綾町綾てるはドーム

受講生 大同特殊鋼 2名 (B級認定)

担当者 越田義昭審査指導委員長
森山正治審査指導委員

(3)審判員評価

- ・全日本高等学校選手権大会参加審判員評価 (埼玉県) 審判審査指導委員3名派遣
- ・全日本総合選手権大会審判員審査 (金沢) 審判審査指導委員6名派遣

(4)国際審判委員の登録と海外派遣実績

- ・IHF 登録審判員
- ・AHF 登録審判員
- ・AHF ビーチハンド

家永昌樹・福島亮一
池淵智一・檜崎 潔

浜田浩和・小笠原久郎
永春文義・安田 寛
藤井俊朗・大熨嘉彦

仲田 稔・植村 彰

以上の届け出を提出。

- ・ YEP 登録 本田昭太・田淵元雄

国際試合と海外派遣

期 日 平成 20 年 7 月 19 日～8 月 5 日

場 所 マケドニア

大 会 女子ジュニア世界選手権

指 名 池淵智一・檜崎 潔

* AHF よりアジア予選のノミネートがあったが、公務の都合でキャンセルをした。
今後は、何とかノミネート以外の代理を立てても大会参加出来るよう務めていく
必要がある。でなければ、アジアの中でも割当が無くなってしまう可能性が出てく
る。

(5) 会 議

- ・ 審判審査指導委員会

期 日 平成 20 年 10 月 17 日(土)、18 日(日)

場 所 東京品川区五反田 東興ホテル

内 容 A・B 級受験状況および審査結果の検討
レフェリーコース前期の受験状況報告
総合選手権大会審判員のノミネート
審判指導内容の検討と資料作り

- ・ 審判審査指導委員会

期 日 平成 20 年 12 月 20 日(土)

場 所 石川県金沢市

内 容 審判講習会のもちかたについて
審判指導法
指導用 DVD の利用法
YRP と NTS のかわりについて

- ・ 審判審査指導委員会

期 日 平成 21 年 1 月 20 日(金)

場 所 国立スポーツ科学センター

内 容 平成 21 年度 A・B 級受験申請書類審査
審判部合同委員会議準備

- ・ 審判部合同会議

期 日 平成 21 年 1 月 21 日(土)、22 日(日)

場 所 国立スポーツ科学センター

参加者 審判部長 競技運営部長 審判審査指導委員会 各ブロック審判長
各連盟審判長 競技規則研究専門委員長 審判国際専門委員長 日本リーグ審
判部長 審判総務専門委員長および審判総務専門委員

- 内 容 ・平成 20 年度諸活動の総括
 ・平成 21 年度活動の検討
 ・競技規則改正点の解説

5 . 競技力向上（強化）に関する事業

1) 国際大会・国際交流親善試合

チーム名	大会名	日 程	場 所	結 果
男子 N	日韓男子国際交流戦	5/3	熊本県・山鹿市	1;韓国 2;日本
男子 N	日韓男子国際交流戦	5/9	韓国・光州	1;韓国 2;日本
男子 N	北京オリンピック IHF 世界最終予選	5/30-6/1	クロアチア・ザ ダル	1;クロアチア 2;ロシア 3; 日本 4;アルジェリア
男子 U-24 女子 U-24	第 7 回女子第 19 回男 子世界学生選手権	7/5-7/13	イタリア・ベネ チア	男子:1;ロシア 2;ハンガリー 3;オーストリア 4;トルコ 5;ポーランド 7;セルビア 8;イタリ 9;ハンガリー 10;日本 11;スロバキア 12;キプロス 13;チェコ 14;フィンランド 15;アゼル バイジャン 16;オーストリア 女子:1;トルコ 2;ハンガリー 3;ルーマニア 4;セル ビア 5;アゼルバイジャン 7;チェコ 8;ブラジ ル 9;ロシア 10;ポーランド 11;日本 12;中国 13;イタリア 14;ハンガリー
女子 U-18	第 2 回女子ユース世 界選手権	7/11-7/20	スロバキア・プ ラティスラバ	1;ロシア 2;セルビア 3;デンマーク 4;ブラ ス 5;スペイン 6;韓国 7;スロバキア 8;アング ラ 9;オランダ 10;ブラジル 11;アルゼンチ 12;チュニジア 13;日本 14;ポルトガル 15;ポンド 16;カタル
男子 U-19	第 3 回男子ユースア ジア選手権(WC2009 予選)	7/11-7/21	ヨルダン・アン マン	1;クウェート 2;カタル 3;イラン 4;バレーン 5; 韓国 6;サウジアラビア 7;日本 8;タイ 9; ヨルダン 10;イラク 11;インド
女子 U-20	第 16 回女子ジュニア 世界選手権	7/21-8/3	マケドニア・ FYRO	1;ドイツ 2;デンマーク 3;韓国 4;スペイン 5;ハンガリー 6;クロアチア 7;フランス 8;モンテ ネグロ 9;ブラジル 10;ルーマニア 11;アングラ 12;アルゼンチン 13;アイスランド 14;日本 15;スロバキア 16;アルジェリア 17;タイ 18; マケドニア 19;オーストリア 20;オーストリア
男子 N	2008 ジャパンカップ 熊本大会	7/22,7/23	熊本県・山鹿市	日本、ブラジル代表 1 勝 1 敗
男子 N	第 13 回ヒロシマ国際 兼 2008 ジャパンカ ップ広島大会	7/25-7/27	広島県・広島市	1;ブラジル代表 2;湧永製薬 3;日本代表 4;韓国軍体育部 隊

男子 U-21	第 11 回男子ジュニアアジア選手権(2009WC 予選)	7/25-8/5	ヨルダン・アンマン	1;ウエト 2;イラン 3;カタール 4;韓国 5;ヨルダン 6;サウジアラビア 7;パルレーン 8;日本 9;中国 10;UAE 11;ホコン 12;インド
男子 U-16	第 11 回日韓スポーツ交流(派遣 / 男子)	8/23-8/27	韓国	
女子 U-16	第 12 回日韓スポーツ交流(派遣 / 女子)	11/16-11/21	韓国	
女子 N	第 12 回アジア女子選手権(2009WC 予選)	11/21-11/28	タイ・バンコック	1;韓国 2;中国 3;日本 4;タイ 5;アフガニスタン 6;ベトナム 7;イラン 8;インド 9;ウズベキスタン 10;カタール
女子 U-16	第 12 回日韓スポーツ交流(受入 / 女子)	12/1-12/6	NTC	

2) 海外強化合宿

チーム名	事業名	日程	場所	参加人数計(役員、選手)
男子 N	ヨーロッパ遠征 (最終予選直前合宿)	5/18-5/28	ドイツ・ハンガリー	22 名(役員 5 名、選手 17 名)
男子 N	ヨーロッパ遠征	1/5-1/17	デンマーク	24 名(役員 6 名、選手 18 名)
女子 N	ヨーロッパ遠征	11/10-11/24	オランダ・スイス	26 名(役員 4 名、選手 22 名)

3) 国内強化合宿(男女ナショナル)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
男子 N	第 1 回 NTC	4/14-4/23	34 名(役員 7 名、選手 27 名)		赤尾・山本
	第 2 回 NTC	5/14-5/17	29 名(役員 7 名、選手 22 名)		赤尾・山本
	第 3 回 NTC	7/15-7/17	27 名(役員 3 名、選手 24 名)		赤尾和彦
	第 4 回 NTC	8/6-8/9	27 名(役員 3 名、選手 24 名)		赤尾和彦
	第 5 回 NTC	9/14-9/15	43 名(役員 6 名、選手 37 名)		赤尾・山本・幕田
	第 6 回 NTC	10/19-10/21	39 名(役員 6 名、選手 33 名)		赤尾和彦
	第 7 回 NTC	11/23-11/25	37 名(役員 5 名、選手 32 名)		赤尾和彦
	第 8 回 NTC	12/25-12/31	55 名(役員 9 名、選手 46 名)		赤尾・山本・高野内
女子 N	第 1 回 NTC	8/25-5/29	25 名(役員 4 名、選手 27 名)		高野内俊也
	第 2 回 NTC	10/11-10/15	21 名(役員 4 名、選手 17 名)		高野内俊也
	第 3 回 NTC	10/19-10/22	21 名(役員 3 名、選手 18 名)		高野内俊也
	第 4 回 NTC	11/9-11/18	61 名(役員 8 名、選手 53 名)		高野内俊也
	第 5 回 NTC	1/12・1/15	13 名(役員 3 名、選手 10 名)		高野内俊也

4) 国内強化合宿(男女ジュニア)

チーム名	場所	日程	参加人数(役員・選手)	ドクター	トレーナー
女子 U-16	NTC	8/25-8/27	19 名(役員 5 名、選手 14 名)		
女子 U-18	NTC	6/20-6/24	20 名(役員 4 名、選手 16 名)		
女子 U-20	NTC	5/24-5/28	18 名(役員 3 名、選手 15 名)		—

女子 U-20	NTC	6/20-6/24	19名(役員4名、選手15名)		—
女子 U-24	NTC	6/24-6/27	19名(役員5名、選手14名)		
男子 U-19	NTC	5/16-5/20	23名(役員3名、選手20名)		
男子 U-21	NTC	6/28-7/2	22名(役員3名、選手19名)		河野公昭
男子 U-19	NTC	7/3-7/8	19名(役員3名、選手16名)		
男子 U-21	NTC	7/18-7/20	19名(役員3名、選手16名)		河野公昭

5) ドクター・トレーナー帯同(遠征・大会)

チーム名	遠征・大会名	日程	場所	ドクター	トレーナー
男子 N	第1回日韓国際交流定期戦アウェイ	5/3	韓国		赤尾和彦
男子 N	第1回日韓国際交流定期戦ホーム	5/9	日本・愛知県		赤尾和彦
男子 N	北京オリンピック IHF 世界最終予選	5/28-6/3	クロアチア	有田 忍	赤尾和彦
男子 U-24	第19回男子世界学生選手権	7/5-7/13	イタリア		永井正之
女子 U-24	第7回女子世界学生選手権	7/5-7/13	イタリア		高野内俊也
女子 U-18	第2回女子ユース世界選手権	7/11-7/20	スロバキア		小西達也
男子 U-19	第3回男子ユースアジア選手権	7/11-7/20	ヨルダン		関沢計人
女子 U-20	第16回女子ジュニア世界選手権	7/21-8/3	マケドニア		飯田純一郎
男子 N	ジャパンカップ熊本・広島大会	7/20-7/27	日本/熊本/広島		赤尾和彦
男子 U-21	第11回男子ジュニアアジア選手権	7/25-8/5	ヨルダン		河野公昭
男子 U-16	ジュニア・ユーススポーツ日韓交流事業	8/22-8/27	韓国		佐藤達宗
女子 U-16	第12回日韓スポーツ交流(派遣)	11/15-12/6	韓国・ソウル		嶋原暢子
女子 N	第12回アジア女子選手権	11/18-12/2	タイ・バンコク	佐久間克彦	高野内俊也
女子 U-16	第12回日韓スポーツ交流(受入)	12/1-12/6	日本・東京		嶋原暢子

6) NTS (ナショナルトレーニングシステム)

- ・ブロックトレーニング(9ブロック)の実施

小・中・高それぞれ男女約1,000名

- ・センタートレーニングの実施

中・高男女ブロック推薦各50名をナショナルスタッフで書類審査を実施し各30名程度を中心に、2009年度U16、U19代表強化指定選手の選考を行った。

7) JOC ジュニアオリンピックカップ大会

男子優勝：沖縄県選抜 女子優勝：山口県選抜

オリンピック有望選手の選考

男子 大迫 秀政 (京都府：男山中学校)

女子 永田 美香 (福井県：光陽中学校)

8) 日本代表チーム

- ・08年度はWC大会が多くWC出場のチームを重点に予算配分した。
- ・海外国内での国際試合や日本リーグチームとのトレーニング試合を実施した。
- ・少数精鋭&重点強化体制で着実な運営ができた。
- ・日本リーグチームとの連携強化を図った。

大会の成績は次のとおりであった。

・日韓男子国際交流戦

- ・日本(熊本)韓国(光州)で開催し2試合とも韓国が優勝

・男子北京オリンピック IHF 世界最終予選（クロアチア）

- ・予選ラウンド3位の成績でオリンピックの出場を逃した、1月の再試合より4ヶ月強化を図り選手も大幅に入れ替えて大会に望んだ、予選で敗退したが若手がけんみのないプレーで次に繋がる内容の大会であった。

・2008 ジャパンカップ熊本大会（男子）

- ・ブラジル代表を招聘し熊本で開催し1勝1敗の成績であった。
大型の選手に対して果敢にアタックしオリンピック世界最終予選の試合内容と同様の評価ができた内容であった。

・第13回ヒロシマ国際 兼 2008 ジャパンカップ広島大会

- ・ブラジル、韓国と招聘し湧永チームとに日本代表の4チームのリーグ戦で実施。
ブラジル優勝、湧永、日本代表、韓国の結果であった、日本代表が単独チーム湧永に敗退し事は選抜の弱点を露骨した内容で今後の強化に課題を残した。

・第12回アジア女子選手権大会（09年 WC 予選、中国）出場権獲得

- ・タイで開催され韓国、中国に次3位で世界選手権出場を獲得した。
アジアハンドボール連盟の運営がIHFの管理下で実施されるか心配であったがIHFからレフェリーも派遣され問題なく終了した。なお、タイ国内のクーデターにより選手の安全面でタイの日本企業に危機管理の面で多大なご配慮をいただいた。

9) under 代表チーム

- ・年齢カテゴリー別の体制でNTSと連携して強化ができた。
- ・代表チームをはじめunderチームスタッフは、ナショナルスタッフチームとした
- ・カテゴリー強化合宿・NTSなどによって指導育成した結果、次のとおりであった。

・第7回女子、第19回男子世界学生選手権 男子10位 女子11位

- ・次のナショナル予備軍であり世界と戦う上で欠かせないカテゴリーである。
男子はロシア優勝とヨーロッパが上位を占めた、女子に関してはトルコが優勝と世界と戦うために日本がいかに強化しないといけないか手本を示してくれた、やはり一過性の強化ではなく1年を通じた長期的な強化がU-24にも必要である。

・第2回女子ユース世界選手権（スロバキア）13位

- ・U-18のカテゴリーで1番強化しなければならない年代である。あるところまでは各強豪国と戦うことができるが最終的には体格の部分で敗退する従来の反省課題と変わっていない、国内での男子との試合等を含め体格面での強化策の必要性を感じた。

・第3回男子ユースアジア選手権（ヨルダン） WC2009 予選

- ・U-19 カテゴリーは次期日本代表の大事なカテゴリーであるが短期間での強化では答えが出せなく、予選敗退とここ10数年世界の舞台に出場できていない。対外試合を含めた強化策を考える必要がある。

・男子第11回、女子第12回日韓スポーツ交流

- ・男女とも韓国に敗退、やはりこの年代から韓国に勝利するか、それに等しい試合内容でなければ上層部のカテゴリーの強化にも繋がらない。精神面等も含め全体的に徹底させる必要がある。韓国はスタッフも含めこの年代から勝負に対する執念が違う。日本での受け入れはNTCを使用。

10) 分析活動および体力向上策

- ・情報科学委員会活動として、国立スポーツ科学センターの強力なバックアップによって分析活動を実現。予算についても、大きな支援をいただいた。
また、NTC のモデルとして競技団体毎の体力向上策の一環として、体力測定モデル化を推進した。

11) ドーピング活動

- ・国体・全日本学生選手権・日本リーグプレーオフで、ドーピングコントロール実施。

12) ナショナルトレーニングセンター

- ・予てからの念願であったナショナルトレーニングセンターの設置について、文部科学省そして日本スポーツ振興センターとJOCと協力して、建物とその機能などについて、要望や意見を出し合って設計施工を実施して2007年12月完成した。
08年度は各カテゴリー全てNTCで強化に努めた、日韓交流もNTCで実施。

13) JHA ジュニアアカデミー開校

- ・アジアNO1に返り咲くために各カテゴリーで韓国に肉薄した内容の試合が大切である。そのためにもNTSで発掘された選手の中から特化して日本のエリート教育を実施し個人能力等スキルアップの為に教室を2008年11月に開校できた。

6. 機関誌発行に関する事業

1)年10回の発行を行った。

1ヶ月平均発行部数 約4,900部(登録の中学校も通年配布となった)
(年1回登録小学校へ無料配布 約250部)

2)広告協賛 13社(伊藤超短波も含む) 毎号掲載は12社

3)機関誌の内容を充実

- (1)「世界を奪い返す」シリーズの連載にて、ロンドンを目指す
- (2) 委員会の連載増加(医事・審判・コーティング研究会・学校体育等)
- (3) 自らの取材による記事の掲載(全日本総合・プレーオフ・インカレ・NTS等)
- (4) 発行回数を見直し(21年度より年9回の発行態勢へ)
- (5) インターネット情報との密接な連携

7. 企画に関する事業

- 1) 中期スケジュールに基づくナショナル強化、普及、国際行事等の調整を行った
- 2) 奨学金制度の検討を行った
- 3) 国際感覚を有し、国際的視野をもった人材の登用
- 4) ジャパンカップ熊本大会、広島大会の開催・運営

8 . 広報に関する事業

1) 広報

広報年間スケジュールに基づき活動を行った

- ・ 定期記者発表（日本リーグ、日本リーグプレーオフ）
- ・ 臨時記者発表（IHF ハッサン・ムスタファ会長来日記者会見など 4 回）
- ・ プレスリリース(メールリリースも含め)58 回
(男女日本代表情報、各カテゴリー国際大会、国内大会他)

・ ナショナルチームの情報公開

インターネット発信(ホームページ)の充実を図った

マスコミ（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ライター他）の取材調整を行った。240 件
東京記者クラブハンドボール分科会との打合せ連絡会を行い、意見交換を行った
大会写真撮影にカメラマンを 4 大会派遣

2) インターネット

日本協会ホームページの充実を図った。

- ・ 日本協会の情報公開項目を増やした。
- ・ 情報発信のスピード化を推進した（大会結果速報用に掲示板を利用した）。
- ・ 写真撮影要員を 1 名増員した。
- ・ フォトギャラリーの充実をはかった。

コンテンツ作成の効率化を図った

東京再予選での異常なアクセスを除くと、HP 訪問数は継続的にアップしている。

9 . 財務・会計に関する事業

平成 20 年度は、平成 19 年度に引き続き財政状況を取り巻く環境が経済的にも社会的にも厳しい状況にあり、縮小均衡を前提に緊縮財政を組まなければならない状態であった。その上、世界的な大不況で影響を受ける事が心配されたが、収入面では、マーケティング事業の目標額達成は出来なかったものの、JOC 補助金、一般登録料の増収などにより予算額を上回った。

支出面では、各事業の見直し、効率的な予算執行、補助金の効率的な運用により特別会計への繰入額が減り、一般会計の当期収支差額は当初予算ではマイナスで組んであったが、プラス側にする事が出来た。

10 . 日本リーグに関する事業

1) 地域とチームが共に協力しての興行力のアップ

- ・平成 20 年度は開催地責任者会議とGM研修会を合同で行い、日本リーグ各試合の集客力増、ファンサービスについて、意見交換を行い、開催地とチームとがより密着し試合を開催す

るようにし、大幅な集客数増に繋がった。(1試合平均30%UP)

- ・プレーオフもレギュラーシーズンの集客増の影響で、大幅な集客増に繋がった。
- ・各開催地も趣向を凝らした、独自のイベントを積極的に行い、大会運営の向上になった。
- ・集客対策も、地方でより地域に密着したメディア(ケーブルTV、タウン誌、市広報誌)の活用でPR活動、集客増に取り組んだ。

2) 組織基盤の強化に取り組んだ。(トータルシステムの充実)

- ・企業・地域市民・地域行政が三位一体となったリーグ運営
- ・南九州・北九州リーグの普及と発展(継続)
- ・リーグ所属チーム選手のハンドボールクリニック、講師としての選手派遣活動
- ・地位自治体とのタイアップ
- ・下部組織設立への準備に着手、21年度発足

3) 広報活動の強化(メディア対策の充実)

- ・リーグレギュラーシーズン前、プレーオフ前記者発表会の質の向上を図った(各チーム監督)
- ・記者発表後、チーム監督、選手、機構役員等によるマスコミ懇親会を行った
- ・リーグ開幕前のPRイベント(ぴあトークバトル)開催
- ・日本リーグ特集番組1月~3月5回放送
- ・プレーオフを全国中継(CS放送)
- ・チーム、選手のメディア出演回数増

4) リーグ活性化事業に取り組んだ。

- ・GM研修会・開催地責任者会議の合同開催
- ・コーチ研修会の開催。
- ・チャレンジリーグを開催した(女子)
- ・ウィンターキャンプを開催した(男子)
- ・第5回東アジアクラブ選手権を熊本で開催

5) ナショナル活動にバックアップを行う。

- ・女子世界選手権予選のための1か月間のリーグオフ日程を作り、強化合宿の日程確保の協力

6) 審判の育成

- ・各ブロックごとに日本リーグ審判員講習会の実施
- ・女子チャレンジリーグで日本協会審査指導委員を派遣し若手審判員の指導を行う。
- ・男子キャンプへ若手審判委員の積極的登用
- ・レギュラーシーズン中も審査指導委員を派遣し指導を行う

7) 競技間連携の推進

- ・日本トップリーグ連携機構主催の審判講習会、新人研修会に参加した
- ・日本トップリーグ連携機構主催ボールゲームフェスタへの参加(静岡県)

1.1. 総務に関する事業

1) 定例の諸会議の開催について、開催場所の選択や人員・規模等を勘案し会議費や日程の効率的運営の推進を図った。

(1) 評議員会 6月7日(東京) 2月14日(東京)

(2) 理事会 6月14日(東京) 11月8日(東京) 2月21日(東京)

(3) 常務理事会 4月12日(東京) 5月10日(東京) 7月12日(東京) 10月11日(東京)
12月13日(東京) 1月10日(東京) 3月20日(東京)

(4) 全国理事長会議

10月2日、大分県大分市で大分国体競技開始前日に開催。日本協会の現状などについて日本協会専務理事より説明が行われた。また、参加者より、ご意見・要望等を聞き、回答した。同会終了後会場を変え懇親会が行われた。

(5) 事務取扱責任者会議 2月22日(東京)

専務理事より日本協会の現状、平成21年度事業計画について説明が行われた。事務局長より平成21年度事業予算、登録等事務的な連絡がおこなわれた。

2) 環境委員会

- ・スポーツと環境保全問題について、主要大会において会場にポスターやバナーの掲示をし、環境問題の啓発に努めた
- ・全日本総合、選抜、春中の大会プログラムにチームマイナス6%のポスターを入れた
- ・クールビズの実施
- ・チーム・マイナス6%より配信される News Leter を都道府県協会・連盟関係者にその都度転送し、啓発に努めた

3) 地方協会へ情報伝達の迅速化に努め、メールによる発信回数を増やした。

4) 事務局の業務改善を図った。

1.2. 「がんばれハンドボール10万人会」サポート会に関する事業

1) 平成20年度サポート会員総数(平成21年3月31日現在)

特別会員 4名

グランド会員 262名

ファミリー会員 107名

ジュニア会員 28名

都道府県ファミリー会員 292名

都道府県グループ会員 5,186名

総数 5,879名

(前年より55名増)

2) 推進活動

- (1)都道府県ファミリー会員・グループ会員入会の促進
- (2)大会会場における会員の優先席設定

3) 事務局

- (1)毎月の入会・更新作業
- (2)打合会の開催・事務処理

13. マーケティングに関する事業

- 1)事務局に専任担当者を置き、事業推進を行った。
- 2)オリジナルグッズの企画を行い、販売した。
- 3)オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤー及び協賛企業の確保・拡大に取り組んだ。 ANA、アシックス、伊藤超短波、エモック、NTTコミュニケーションフレンディア、モルテン、積水ハウス等々
- 4)スポンサー感謝の集いを開催した。
- 5)「東京タワージャック・北京オリンピック IHF 世界最終予選男子日本代表壮行会」を開催した。
- 6)JOC、トップリーク連携機構と連携し、マーケティング向上につとめた。
- 7)日本協会主催大会の協賛活動を支援した。